



社会医療法人 智徳会

未来の風せいわ病院

地域医療連携室ニュースレター

No.8 平成27年7月発行
〒020-0401
盛岡市手代森9-70-1
電話番号 019-696-2055
FAX 番号 019-696-4185

ごあいさつ

関係機関の皆様、日頃より当院の運営にご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

当院は平成24年11月の新病棟開設以来、精神科急性期治療病棟の充実と地域のニーズにお応えすべく地域ケアにも力をそそいでまいりました。

このたび、当院では更なる精神科救急医療を行なうため、スタッフの体制や病棟の設備を充実させ、急性期の集中的な治療を実施し早期の回復を図ることを目的として、精神科救急入院病棟（スーパー救急病棟）の認可をうけるべく、7月1日より実績作りを始めました。

スーパー救急病棟はスピーディかつ、濃密なマンパワーをもって良質な治療、看護を提供する病棟です。岩手県内では初めての試みですが、精神科医療・精神科看護の大きなテーマのひとつである救急治療に積極的に取り組み、地域の皆様の要請に応えていきたいと考えております。

今後とも、変わらぬご指導をお願い申し上げます。

今年の4月に副看護部長兼看護師長になりました山口晴美です。私は、退院調整の精神科認定看護師となり、当病院に勤務させていただいています。

当院には、精神科の急性期病棟からスーパー救急病棟への移行を目指している病棟があり、3か月以内の退院が6割以上等の条件下で心理教育やクリニカルパスを活用し、退院支援を行っています。

一方で、長期入院の病棟もあり、昨年は、高齢精神障害者地域移行支援事業にも携わらせていただきました。その中で患者様自身が退院に消極的であり、家族も退院については否定的だったのですが、いざ支援を受けて施設へ退院となると、患者様の表情がいきいきとして家族の方もとても喜んでくださった事例にすることができました。これは、退院支援に取り組んだ看護と他職種との連携がとれてこそ達成できたことだと思います。

これからも、看護ケア、他職種連携の向上に努め、当院の基本理念である、「すべての人がいきいきと自分らしく生きていける地域社会づくり」を目指していききたいと思います。

基本理念

すべてのひとがいきいきと自分らしく生きていける地域社会づくり

8つの基本指針

1. 私たちは、常に笑顔を絶やすことなく最高のサービスを提供します
2. 私たちは、「ひとの心の痛みに涙する」温かく深い人間性と豊かな感性を磨きます
3. 私たちは、いのちの尊敬と基本的人権を尊重します
4. 私たちは、社会的使命をもってよりよい地域社会づくりに努めます
5. 私たちは、職業人として技術と資質の向上に努めます
6. 私たちは、よりよい職場づくりのために対話と相互理解に努めます
7. 私たちは、共に働く仲間たちに感謝し、自らの仕事に誇りを持って働きます
8. 私たちは、高い志をもち、我が国を代表する病院・施設づくりに努めます

救急病棟に向けて



病棟師長
小笠原 洋

わが国では1995年に精神科救急システム整備事業が創設され、今年で20年が経ちます。

それから今日まで精神科医療の充実について検討がされ、2013年には精神科救急入院料認可施設は全国で106件となるまでになりました。しかし東北では7施設、県内には0という状況でした。

当院でも2013年から精神科急性期治療病棟を運用してまいりました。そこで学んだ経験や知識を基に、7月から精神科救急病棟、いわゆるスーパー救急病棟立ち上げのための実績づくりに取り組んでいます。

急性期病棟を運用していくうえで重要と考えていることは、2点あります。

1つ目は、病院全体としての取り組みとして意識の統一が図れているかということです。ベッドコントロールは他の病棟や外来、また地域移行はすべての部署の協力がなければ円滑にはできません。他部署と情報を共有する機会を設け、迅速な対応が必要になります。当院では毎朝のベッドコントロール会議を10分ほど行い、毎週水曜に入院エンジン会議を行っています。（入院エンジン会議とは、各部署の担当者が集まり急性期病棟の情報を共有し、入院から地域移行について検討する会議です）

2つ目は、急性期看護の充実です。早期に地域移行をしていただき、地域や在宅での生活を支えていくためには入院中の良質な看護の提供が必須です。入院時から退院後の生活に向けた援助が出来るか、短期の入院期間の中でいかに患者様とご家族との信頼関係を確立できるか、その患者様に合った医療・看護を提供できるかなど課題は多いです。取り組みとしては病棟でのクリニカルパスや、心理教育、SSTなどを行っています。

このように救急病棟の運用には基準をクリアできるよう、その地域や病院にあった仕組み作りや目的に沿った取り組みが必要になると思います。

いろいろと課題は多いわけですが、皆様のご協力をいただきながらひとつひとつを乗り越え、まずは救急病棟の実績をクリアすることを目標にしていきたいと思います。

精神科救急病棟の師長という大変な役割をいただきまして、責任の重さを痛切に感じておりますが、スタッフに助けられながら、また当院に関わる皆様に支えていただきながら、「すべての人がいきいきと自分らしく生きていける地域社会づくり」という病院の理念のもと、良質な医療・看護を提供していくよう病棟づくりをしていきたいと思っております。

どうぞ皆様からの温かい支援とご指導を今後ともよろしくお願いいたします。

病床数

病 棟	病床数
A3病棟 ハイケア・ストレスケア病棟	52
A4病棟 亜急性期病棟	59
A5病棟 急性期病棟	50
A6病棟 要介護認知症病棟	58
B病棟 特定疾患治療病棟	44
C2病棟 精神療養病棟	57
C3病棟 慢性期病棟	61
合 計	381

職員数

職 名	員 数	職 名	員 数
医 師	11	臨床検査技師	2
薬剤師	4	管理栄養士	4
保健師	6	栄養士	3
看護師	110	調理師	23
准看護師	53	事務員	30
精神保健福祉士	18	看護助手	45
作業療法士	11	養護教諭	1
臨床心理士	7	保育士 他	15
放射線技師	2	合 計	345

(平成27年7月1日現在)

地域移行状況



医事係長
吉田 隆洋

再入院が実績に含まれなくなった平成26年4月以降でも、ほとんどの月で地域移行率60%以上で推移しています。

スーパー救急では地域移行率60%以上の実績が求められます。

今後はスーパー救急実績作りの為に、毎月の地域移行率70%を目標として取り組みます。さらに、地域移行された患者様が再入院せずに安心して暮らせるようサポートして参ります。

急性期治療病棟における地域移行率

入院月	新規入院数	地域移行数	再入院数	実績	移行率
平成26年4月	27	20	2	18	66.7%
平成26年5月	33	25	4	21	63.6%
平成26年6月	32	26	5	21	65.6%
平成26年7月	34	30	3	27	79.4%
平成26年8月	26	19	3	16	61.5%
平成26年9月	29	21	1	20	69.0%
平成26年10月	30	20	2	18	60.0%
平成26年11月	20	14	4	10	50.0%
平成26年12月	30	26	6	20	66.7%
平成27年1月	30	19	2	17	56.7%
平成27年2月	30	22	3	19	63.3%
平成27年3月	23	16	1	15	65.2%
平成27年4月	20	10	0	10	50.0%

トピックス

法人関連施設等を紹介してまいります。今回は、臨床心理科です。

■臨床心理科



臨床心理科科長
坂川 樹美子

我々、未来の風せいわ病院臨床心理科は現在診療部に5名、ディケアに2名と総勢7名が常勤で働いております。同一病院に、これだけ多くの常勤の臨床心理士が働いてというのは、県内、もしくは全国的に見てもそう多くはありません。

というのも近年、幼児さんからご高齢の方まで幅広い年齢層、多種多様な症状に悩んだ患者様が、心理的援助を求め、当院に来院されることが増えてきているのです。特にカウンセリング・プレーセラピーなどの「心理面接」の件数は25年度の月別件数に比べて、26年度は100件近く増えているのが現状です。ここで多くは診察の上で、主治医に勧められて心理面接に結び付くのですが、最近は受診の際、自らカウンセリングを希望されて来院されることも多くなっています。そのような患者様のニーズに応えるべく、心理科は人数を増員するとともに、様々な研修を重ねてきました。

特に児童思春期の患者様が増加したことから、「箱庭療法」などにも対応できるプレールームを試行錯誤しながら整備してきました。(写真)

臨床心理科の主な業務として、前述した「心理面接」のほかには、患者様の状態を適切にアセスメントする「心理検査」が挙げられます。特に昨今の動静として、「自分は発達障害ではないか」と悩んで、受診される方が多く見られ、他の専門機関との連携を求められるケースも急増しています。他にも、様々な複合的な症状に悩む患者様に対して、ご本人がその「困り感」を適切に理解し、ご家族や学校・職場と共有できるような援助を行っています。

他にも当院臨床心理士は、心理教育やSST、家族教室、など多職種と連携し、チーム医療の一翼を担っております。また地域の保健活動の要請を受け、委託事業として様々な機関に出向いて活動しネットワークを広げております。

以上のように7名それぞれが自己の個性を生かして、お互いに支え合いながら、幅広く患者様のニーズに応えられるよう、日々研鑽に励んでおります。今後とも、皆様のご指導宜しくお願い致します。



～新規の受診・入院相談～

019-696-2055 にお電話下さい。

FAX:019-696-4185

初診・再診の予約制を実施しております。電話対応した事務員に地域医療連携室 外来師長 砂 とご指名ください。はじめての受診・入院相談を地域医療連携室がお受けいたします。受診の際には、下記URLから患者紹介FAX申込書を別途ダウンロードしてお使いください。

URL : <http://www.i-seiwa.com/chikiiryorenkei.html>

外来担当医

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
新患担当	当番制	八重樫香奈子	田嶋宣行	佐々木浩行	遠藤知方	再診のみ 第1・第3 佐々木 浩行
再診担当	当番制	田嶋宣行 智田文徳	佐々木浩行 遠藤知方	智田文徳	八重樫香奈子	第2・第4 田嶋 宣行 第1・第5 遠藤 知方

診療時間

月曜日～金曜日	9:00～17:00
土曜日	9:00～12:00
休診日	日曜・祝日・お盆(8/14～16)・年末年始(12/29～1/3)

病院へのアクセス



社会医療法人智徳会

未来の風せいわ病院

〒020-0401 岩手県盛岡市手代森9-70-1

TEL: 019-696-2055(代)

FAX: 019-696-4185

<http://www.i-seiwa.com>

バス

●長岡線・日詰駅前行き

盛岡駅(5番)発又はバスセンター(構内3番)より乗車、手代森ニュータウン北口降車(約20分)バス停より徒歩5分

●日赤経由・ふれあいランド経由川久保線、乙部線 手代森ニュータウン南口行き又は乙部行き

盛岡駅(5番)発バスセンター(NANAK[18中三]向)経由、手代森ニュータウン北口降車(約20分)バス停より徒歩5分

●中央線・都南の園営業所行き

盛岡駅(5番)発バスセンター(NANAK[18中三]向)経由、手代森ニュータウン入口降車(約30分)バス停より徒歩3分



車

●盛岡駅から車で20分

(国道4号・396号經由 都南大橋過ぎセブンイレブン左折後、500m左側)

●東北自動車道 盛岡南ICから車で15分

(県道36号・国道396号經由 同上)

※無料駐車場完備